

令和6年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

第5学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読み書きが苦手な児童が多い。 ○文章から読み取ったことを要約したり、読み取ったことに対する自分の考えを書いたりすることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○くり返し練習させることで、漢字の定着を図る。 ○自分の考えを文章に記録する振り返りなどの共有する時間を大切にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絶対的に時間確保が難しい点を克服するために、家庭での学習を促し協力理解も求めていく。 ○語彙力を高めて文章の構成を考えながら読めるように言葉作りや文章を書く活動を多く取り入れ、よい表現は紹介し意欲を高める。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○知識の定着ができる児童と、定着できていない児童の二極化がある。 ○社会的事象から考えたことや思ったことを表現することに課題がある。また、それらを友達に伝えたり、議論したりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識を得るだけでなく、友達に伝え合う活動を多く取り入れることで確かな理解を図る。 ○社会的事象に対して考えたり、議論したりする時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題意識をもったうえで、児童が自分に合った学び方を選択判断しながら、学ぶことができるようにする。また、学んだことをアウトプットできる時間を確保する。 ○社会的な見方・考え方を働かせられるような資料（写真やグラフなど）、発問の整理によって、児童がより思考しながら、主体的に学習に取り組めるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の基礎基本となる内容の定着に個人差があり、学んだことを積み上げるのが難しい。 ○自分の考えを表現するときに、根拠を示し、筋道立てて説明することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「わかる」「できる」「使える」を意識した指導を展開する。 ○授業の中で、自分の考えを表現する場を意図的に設け、根拠の示し方や説明の仕方を指導する。ノートには、問題の答えだけでなく、なぜそのような答えに至ったのかを図や式、言葉を使ってかくような授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度の低いコースでは、「分かっていること」と「まだ分からないこと」を問題把握の場面で児童につかませ、既習事項を活用するための見方や考え方を取り上げる。習熟度の高いコースでは、学んだことを基に、児童自ら数や条件を変えたりして、発展的に考えるように取り組む。 ○自分の考えを表現したくなるような学習課題を設定する。また、ペア学習やグループ学習を取り入れることで、相手意識をもたせ、相手が分かるような説明になるように図や式、言葉を使ってノートに書くように指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○予想や仮説を基に、解決の方法を発想することが十分にできていない。 ○結果を考察し、自分の考えを書くことが十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○要因抽出のために条件を制御する考え方や、自ら実験・観察方法を見いだすことができる。 ○予想を振り返ること、結果から考えられることを結果を根拠にして書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○予想や仮説を確かめるために実験や観察を行うという、実験の意義について、児童が自覚して取り組めるように声をかける。 ○単元構成や年間の学習計画を工夫し、実験の技能を高め実験の仕方を確かめる時間と、これまでの学習や実験を基に自ら実験方法を考える時間を設ける。 ○結果（事実）と考察（解釈）を明確に区別できるように、結果の表し方と結果の分析の仕方を個別・全体で声をかけ、指導する。

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<p>○運動の特性に即した基本的な技能を身に付けていない児童がいる。</p> <p>○仲間の考えを認め、運動技能を高めようとする態度が十分に養われていない。</p>	<p>○運動の特性を明確にする。技能を身に付けるための練習の場を工夫しながら、自己に合った場を選ばせながら、具体的に指導する。</p> <p>○仲間の考えを知るよさに気付かせ、自己の最善を尽くせるように周囲の友達や教師などから学ぶ姿勢を身に付けさせる。</p>	<p>○授業の運動を他の運動と比較し、運動の特性について考えさせる。また、基本的な技能の身に付け方をいろいろな資料や場の選択を活用し、技能を高められるように指導する。技能を高めるための活動の時間を確保する。</p> <p>○動画を撮り合ったり、ワークシートを活用した交流をしたりするなど、仲間や教師と関わり合い、客観的な助言をもらえるようにするよさを体感できる時間を設定する。</p>
音楽	<p>○全体的に意欲的に取り組む児童が多く、協力して授業に臨んでいる様子が見られるが、気分によって集中できなかったり、周りとおしゃべりを始めてしまったりする児童もいる。</p> <p>○自信のある個所と、苦手な箇所とで極端に音量が変わったり、表情が変わったりする児童も少なくない。</p>	<p>○学習のきまりをしっかりと身に付けさせ、定着させる。</p> <p>○間違えることが恥ずかしいことではないと伝える。課題を児童自ら見つけることができるように働きかけ、解決方法の例を示し、練習できる環境を作る。</p>	<p>○授業の導入で、児童の期待を高めるような導入をする。</p> <p>○できたところは褒め、自信をつけさせる。つまづいてもよかったところを伝え、不安を取り除く。</p>
図工	<p>○意欲的に取り組んでいる児童が多いが、細部まで丁寧に時間をかけて取り組むのが苦手な児童もいる。</p> <p>○豊かに発想できる児童も多いが高学年になると、常識にとらわれ、発想することに苦手意識をもつ児童が増えてくる。</p>	<p>○細部まで丁寧に取り組んでいる児童の作品を見合う時間を設ける。</p> <p>○人とは違った良さを認め合う活動を多くもち、自信をもって、自由に発想できるよう適切な声かけをする。</p>	<p>○授業の導入、途中、振り返りの時間等で、丁寧に取り組む大切さを強調して指導する。</p> <p>○授業途中での鑑賞や技法・作品の紹介を取り入れながら、児童一人一人の造形的な表現力を高め、お互いの良さを認め合える機会を多くもつ。</p>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 初めての家庭科の授業に対して、興味をもって取り組んでいる児童が多い。 調理実習では、どのクラスも班で協力しながら楽しく進めることができた。習ったことを活かし、家で実践する子も出てきた。 ソーイング実習では、初めて裁ほうを体験する子が多く、玉結びや玉どめ、手縫いに苦戦する児童が多かったが、あきらめずによく努力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も授業で習ったことを実際の生活で実践していけるよう、引き続き指導していく。 クラブ活動等で裁ほうの経験を重ねていたり、習得が早かったりする児童が各学級にいますので、児童同士で教え合ったり助け合ったりできる体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期以降も、家庭科のねらいを意識しながら授業を進め、担任と協力しながら、家庭で取り組むように声をかけていく 課題が終わった児童が、支援を必要としている児童のところにスムーズにいけるようにルール作りをしていく。教える側も教えてもらう側も気持ちよく活動できるように工夫する。
外国語	<p>○英語の意味や発音を意識しながら話すことに課題がある。</p> <p>○活動後の振り返りが「楽しかった」で終わることが多く、英語の対話や書き方に関する学びが十分でない。</p>	<p>○自分や身の回りのものについて、表現を工夫しながら友達と考えを伝え合うことができる。</p> <p>○授業で得た英語の知識や自身の興味をもったこと、発表や話し方の工夫について振り返り、よりよい英語のコミュニケーションにつなげることができる。</p>	<p>○英語でやり取りする目的、場面、状況を明確にし、児童の表現の仕方からできたこと、もう少しなところについて丁寧に伝え、次回の学習につなげられるようにする。</p> <p>○言語活動後に振り返りの時間を十分にとり、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおける表現方法について丁寧に説明するとともに、自身のできたことについて具体的に考えるように声掛けを行う。</p>